

文教委員会 委員会視察報告

令和6年12月10日

委員長 大野 あつ子

視察行程 令和6年10月16日から同月18日まで

10月16日 長野県長野市

児童生徒の学校以外の居場所、SaSaLAND（ササランド）
について

10月17日 石川県

図書館における子どもの居場所機能について
富山県滑川市
学力向上の取組について

10月18日 富山県立山町

子育て支援策と元気交流ステーションみらいぶについ
て

視 察 者 委員長 大野あつ子

副委員長 東山あきお

委 員 きくち由美子、本多夏帆、三島杉子、川名ゆうじ

文教委員会（令和6年10月16日から同月18日まで）

日 時	令和6年10月16日 午後1時から午後2時30分まで
視察先	長野県長野市
テーマ	児童生徒の学校以外の居場所、SaSaLAND（ササランド）について
目 的	学校へ行きにくくなっていたり、行けない状態が続いたりしている小・中学生に対して、学校以外の居場所を提供し支援することについて学ぶ。
内 容	<p>1 施設について</p> <p>(1) 七二会小学校笹平分校の2階建ての旧校舎を活用</p> <p>(2) イニシャルコストは、 令和5年度 1億24万4,000円 令和6年度 8,128万7,000円</p> <p>(3) ランニングコストは、人件費や無料送迎バスに要する約4,000万円</p> <p>(4) ハンモックや階段下のスペースなど、子どもたちがくつろげる工夫がされている。</p> <p>2 利用状況</p> <p>・登録人数 157人、 利用人数 延べ3,331人、 1日平均30人</p> <p>3 メタバースササランドの利用実態</p> <p>(1) 週3回、午前9時30分から 午前11時30分まで</p> <p>(2) マインクラフト教育版使用、 1日平均9人参加</p> <p>4 通学</p> <p>(1) 無料バス2経路（保護者が同乗可）</p> <p>(2) 半数は保護者が送迎</p> <p>5 活動</p> <p>「日課の詳細は子どもが自ら選び、自ら決める」</p> <p>選択活動 自分のペースで自分らしく過ごす。 一斉活動 短時間でも全員で同じ活動に取り組む。</p> <p>・給食有り</p> <p>センター方式給食が運ばれてくる（学校とSaSaLANDで二重に配食されないよう、保護者が学校へ連絡をする。）。</p> <p>6 保護者への支援</p> <p>・親の会、ペアレントトレーニング</p>
成果（参考になった点）、課題等	<p>1 旧校舎を活用していることから、数々の部屋や、体育館、校庭もあり、大変恵まれた環境であると思った。給食があることも重要だと感じた。</p> <p>2 施設長はじめ担当者が、子どもの自主性を大切に考えて、「居場所」としての場づくりに徹していることが大変参考になった。関わる「人」の重要性を強く認識した。</p>



文教委員会（令和6年10月16日から同月18日まで）

日 時	令和6年10月17日 午前9時30分から午前11時まで
視察先	石川県（石川県立図書館）
テーマ	図書館における子どもの居場所機能について
目 的	子どもの居場所としての図書館の可能性を学ぶ。
内 容	<p>1 施設</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 総工費 170億円(2) 令和4年7月に金沢市小立野2丁目にオープン（兼六園から約2キロメートル）(3) 地上4階、地下1階建ての建物で、延べ面積は約2万2,700平方メートル(4) 開架は約30万冊、書庫の収蔵能力は約200万冊、閲覧席数は約500席(5) 円形の書架は能登半島地震でも本が落ちなかった。(6) 令和5年度の来館者数は102万6,046人で、当初の目標だった年間100万人を突破(7) 設計は、仙田満＋株式会社環境デザイン研究所と石川県土木部営繕課 <p>2 コンセプト</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 敷居の低い図書館 図書館の中に公文書館を入れる。 石川県ならではのコレクションを収集・活用(2) 公立図書館としての新たな挑戦<ol style="list-style-type: none">① 本との思いがけない出会い② 新たな体験や出会いの場飲食可 のエリア 有り③ 第3の居場所 おしゃべりOK <p>3 子どもエリア</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 子どもの年齢によってゾーン分け(2) 遊び場を思わせるようなスペース(3) 床面に投影した映像を手足で触れると映像が動くなど、子どもが楽しめるスペース <p>4 人材育成</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 司書は、全て正規職員にすることで、ノウハウの蓄積を可能にしている。(2) 石川県で起こっていることを、タイムリーにテーマ展示として扱うことができるのが強みである。
成果（参考になった点）、課題等	<p>1 石川県の伝統文化を大切にする観点から、色使いや書架にもこだわっており、円形劇場のような構造は圧巻だった。インスタ映えするエリアとすることで新しい層を引き込んでいると推察する。</p> <p>2 子どもエリアも大変充実しており、小さいころから図書館に来ることが楽しみになると思う。</p> <p>3 司書を正規職員にし、育てていくことは、図書館に命を吹き込むことだと感じた。</p>



文教委員会（令和6年10月16日から同月18日まで）

日 時	令和6年10月17日 午後3時から午後4時30分まで
視察先	富山県滑川市
テーマ	学力向上の取組について
目 的	「科学の時間」による小・中学校9年間を通じた、学力向上の取組について学ぶ。
内 容	<p>1 滑川市の小・中学校 小学校7校 児童数 1,620人、中学校2校 生徒数 806人</p> <p>2 「科学の時間」の創設の経緯 大手企業の工場が多く、製薬会社などもあり、「ものづくりのまち滑川」という自負がありものづくりの滑川の基礎となる人材の育成を目指す。</p> <p>3 「科学の時間」に関する組織・体制について 理科専科教員の配置や民間や大学との連携を行っている。</p> <p>4 「科学の時間」の実際について</p> <p>(1) 科学の時間の目的</p> <p>① ものづくりの滑川の将来を支える人材の育成</p> <p>② 体験的活動等を重視した主体的、対話的な深い学びの展開</p> <p>③ 豊かな自然を活用した学習による古里を愛する心の育成</p> <p>④ 食育や環境教育、プログラミング等の学習による自然愛や生命尊重の心、情報化社会に生きる力の育成</p> <p>(2) 小・中学校9年間の一貫した教育として、新教科「科学の時間」を実施 小1～2年 5時間、小3～中3 35時間</p> <p>(3) 「科学の時間学習スタンダード集」（ひな型）を活用しつつ、各校の創意を生かした取組も実践</p> <p>(4) 例えば、滑川が扇状地であることを座学で学んだ後、クルージングにより海上から地形をみて学習するなど。</p> <p>5 「科学の時間」の成果</p> <p>(1) 数値として表すことは難しいことが課題である。</p> <p>(2) 児童生徒の身近な科学の話題やものづくりへの、興味・関心の高まりやきっかけづくりになる。</p> <p>(3) 発展的な学習内容では、外部講師による出前授業を活用し、より学習を深めることができる。</p> <p>(4) 生きて働く知識の獲得や技能の向上につながる。</p>
成果（参考になった点）、課題等	<p>1 理数教育に専門講師をつけていることなどは、武蔵野市にも通じるところがあり、小・中学校で科学的な物の見方を体験することは非常に重要であると実感した。</p> <p>2 富山県が教育に対して支援してくれていることがすばらしいと感じた。</p> <p>3 教育の成果を、数値化することは難しいので、大変な部分も多いと推察するが、県や市が教育に真剣に取り組んでいることはいずれ大きな成果となると思う。</p>



文教委員会（令和6年10月16日から同月18日まで）

日時	令和6年10月18日 午前10時から午前11時40分まで
視察先	富山県立山町（立山町元気交流ステーションみらいぶ）
テーマ	子育て支援策と元気交流ステーションみらいぶについて
目的	子育て支援策と保健センターと子育て支援施設そして図書館などが複合化している「元気交流ステーションみらいぶ」について学ぶ。
内容	<p>1 子育て支援策</p> <p>(1) 通学用リュックサック 「わんパック」の配布</p> <p>① 新入生全員に「わんパック」を配布している。</p> <p>② 予算額 令和6年 170万円</p> <p>③ 目的 保護者の負担軽減 軽量で丈夫なリュックサックにより、児童の負担軽減</p> <p>④ おおむね好評で、使い勝手の悪いところはメーカーが改善してくれる。</p> <p>(2) 孫守り奨励金</p> <p>① 就労中の父母に代わり、祖父母等が保育を行うことに対して報奨金を交付</p> <p>② 町長の公約により実現</p> <p>③ 現在は人手不足により就労している高齢者が多く、申請は多くはない。</p> <p>2 元気交流ステーションみらいぶ</p> <p>(1) 建設の経緯 老朽化した施設がいくつかあり複合化することで新たな施設として、五百石駅前の土地を購入し、12年前に建設された。</p> <p>(2) 施設</p> <p>1 階 改札口、観光交流スペース、喫茶スペース、イベント広場（車両乗入れ可）、図書館</p> <p>中2階 交流プロムナード、音楽交流室（学生の希望で実現）</p> <p>2 階 くつろぎ交流室、町民ギャラリー、多目的交流ロビー、調理室、大会議室、児童図書館</p> <p>3 階 社会福祉協議会、健康福祉課、まちなか子育て支援室、保健センター、訪問看護ステーション、健診ホール、介護予防機能訓練室</p> <p>① 管理は指定管理</p> <p>② 複合化施設にする利点</p> <p>③ 住民から見るととにかく「元気ステーション」に行けばいいという分かりやすさがある。職員も同じ建物にいたので連携が容易。</p> <p>④ 駅直結の図書館も利便性が高い。</p> <p>⑤ 図書カードにマイナンバーカードを活用することにより、近隣自治体と共有で使える。</p>
成果（参考になった点）、課題等	<p>1 通学リュックは大変機能的で良いものだった。</p> <p>2 駅直結の場所に、複合施設がありワンストップで支援が受けられることは、住民にとって大変分かりやすいサービスであると感じた。</p>

